

寝屋川市

寝屋川市における「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」について

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムによる予防、生活や医療の支援、地域づくりなどを「地域共生社会」の実現を目指す取組や高齢分野の地域包括ケアシステムなどとも連動させながら、自立支援協議会の精神障害者部会等を通じて関係機関等がニーズや課題等を共有し、大阪府等とも連携して推進しています

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

寝屋川市



取組内容

・【精神障がい者の地域移行の取組み】

寝屋川市自立支援協議会精神障害者部会地域移行・地域定着サブワーキング会議では、「地域移行・地域定着についての課題の共有・検討を行い、寝屋川市民及びねや川サナトリウムの退院促進を図る」「《寝屋川市精神障害者地域生活支援マネージャー》として精神科病院等に訪問し、退院支援活動を行う」ことを目標に多機関・他職種で連携し協議を行っています。

・【精神障害者地域生活支援広域調整会議等事業】

精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、情報共有や協議を行う場を設置する事業を自立支援協議会の精神障害者部会会議と連動させて実施します。

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数（R6年11月時点）	1	か所	
市町村数（R6年11月時点）	1	市町村	
人口（R6年11月時点）	224,551	人	
精神科病院の数（R6年11月時点）	1	病院	
精神科病床数（R6年6月時点）	267	床	
入院精神障害者数 （R5年6月30日時点）	合計	270 人	
	3か月未満（％：構成割合）	90 人 33.3 ％	
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	54 人 20.0 ％	
	1年以上（％：構成割合）	126 人 46.7 ％	
	うち65歳未満	71 人	
	うち65歳以上	55 人	
相談支援事業所数 （R6年4月時点）	基幹相談支援センター数	1 か所	
	一般相談支援事業所数	7 か所	
	特定相談支援事業所数	16 か所	
保健所数（R6年11月時点）	1	か所	
（自立支援）協議会の開催頻度（R6年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	112 回/年	
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R6年4月時点）	都道府県	無	か所
	障害保健福祉圏域	有	1 / 1 1 か所/障害圏域数
	市町村	有	1 / 1 1 か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

• 長期入院精神障がい者の退院の促進

1 寝屋川市では、入院中の人の地域移行の推進のための協議を寝屋川市自立支援協議会精神障害者部会地域移行・地域定着サブワーキング会議にて行っています。

（以下活動例）

- 個別事例についての検討
- 新たな支援対象者のアプローチ方法や支援担当者及びピアサポーターの力の活用についての検討
- 社会資源シートのブラッシュアップと活用についての検討、退院困難事例の課題の整理と対応の工夫についての検討
- ピアサポーターの取組の共有とさらなる進展に向けた検討、
- 管内病院の他市町村退院支援成功事例と病棟看護師の取組、支援の紹介

2 アウトリーチ事業評価検討委員会の実施

自立支援協議会精神障害者部会ワーキング会議にて、地域移行・地域定着サブワーキングでの個別支援事例を報告し、評価や検討、意見交換を行っています。

• 地域包括ケアシステムに係る協議の場

精神障害者地域生活支援広域調整会議等事業として、自立支援協議会の精神障害者部会会議と連動させた協議の場を設置しています。年1回開催をしており、保健、医療、福祉等の多分野による関係者で協議を行っています。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 平成19年3月 自立支援協議会を設置。
- 平成24年 精神障害者部会が設置。
- 平成30年度から自立支援協議会の精神障害者部会会議と連動させて協議の場を設置し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するため、関係機関等での情報共有や課題解決に向け協議を行っています。

<協議の場参加者> (R5時点) 精神科医療機関、精神科診療所、障害福祉サービス事業所、保健所、障害者相談支援事業所、障害福祉課

- 平成31年4月 中核市に移行

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

<昨年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (昨年度当初)	実績値 (昨年度末)	具体的な成果・効果
①協議の場の開催回数	1	1	課題解決に向けて関係機関等での情報共有や協議を行った。
②メンタルヘルスケアについての啓発	2 (イベントの開催・広報掲載)	2 (イベントの開催・広報掲載)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者理解啓発事業として、毎年イベントを開催。昨年はメインイベントとして当事者活動団体のゴスペル、精神科医による講演を行った。 ・ストレスケア、相談先について広報に掲載し、広く市民に精神疾患、精神障害について知ってもらうきっかけとなった。
③医療機関からの退院への支援	目標値設定なし	支援実績数5名 患者面会・同行回数38回 カンファレンス回数5回	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ評価検討委員会で支援の報告を行い、変化に焦点をあてた報告シートに改定できたことで、支援実施による入院者や病院との連携状況の変化が見える化された。また、その事により、病院との連携についても意識し、病院カンファレンスの参加も増加した。 ・「社会資源シート」の活用工夫を検討し、アレンジを加えることで入院者の注目度が上がる変化が生まれた。 ・ピアサポーターによる当事者目線の地域移行支援が安心感や信頼につながることや、専門職との協働の意義の共有が図られた。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

- ・精神障害者部会において月1回関係機関で情報共有をしている。
- ・地域連携勉強会・ひきこもり支援セミナー・ハートフェスタを継続して実施し、関係機関が地域で共に成長し合う基盤ができています。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
地域移行・地域定着サブワーキングで行ったアウトリーチ支援について、どのようにアウトリーチ評価検討委員会で検討・評価をするか	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの機関が複雑困難な状況にある事例にアウトリーチし、治療継続や安定したサービス利用に向けた支援を行っており、それについても評価する仕組みの必要性について検討 ・評価軸を設定する 	行政	検討する会議の場の整備
		医療	検討する場への参画、進言
		福祉	検討する場への参画、進言
他分野、多職種との連携の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> ・他分野、多職種での支援が必要な多問題ケースなど対応しにくい人の、早期発見・早期介入の仕組みについて検討 ・分野をこえた研修会等の開催 	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する会議の場の整備 ・研修会等開催における周知活動
		医療	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する場への参画、進言 ・研修会等の企画
		福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する場への参画、進言 ・研修会等の企画

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (今年度末)	見込んでいる成果・効果
①精神障害者部会ワーキング会議での検討	1	1	来年度の議論に向けて、アウトリーチ事例報告シートを見直した
②研修会等の開催	1	1	分野をこえた横のつながりの形成

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するため、本市では平成30年度から自立支援協議会の精神障害者部会会議と連動させて協議の場を設置し、関係機関等での情報共有や課題解決に向け協議を行っています。今期も目標の設定や評価等も行いながら、精神障害者部会のワーキング会議やサブワーキングなどでの協議や協働を通じて、精神障害のある人の地域生活を支援するための取組を推進します。

所管部署名	所管部署における主な業務
障害福祉課(基幹相談支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス支給決定事務 ・障害者手帳交付 ・虐待防止と相談支援 ・自立支援協議会事務局 など

連携部署名	連携部署における主な業務
保健予防課(精神保健福祉担当)	精神保健福祉相談
寝屋川市保健所	保健衛生業務
大阪府地域精神医療体制整備広域コーディネーター	市町村や圏域の協議の場に参加し、情報の集約を行い、課題を共有し、好事例の横展開を行う

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	市内の精神科病院が自立支援協議会における事例検討会や、各ワーキング等に参加するなど地域における医療機関と情報共有し、医療と行政がスムーズに連携を図れるようにしている。	保健所の保健師が個別ケースを通して地域診断を実施することで、地域課題の早期発見につながっている。保健師、看護師等による専門家チームを作ることが次の目標である。
医療	地域移行地域定着サブワーキングや、各ワーキングに参加し、行政とスムーズに連携を図れるようにしている。	保健所で開催する精神科医療を中心としたネットワーク会議と、にも包括の協議の場を連動させながら検討していく必要がある。
福祉	ワーキング会議、サブワーキング会議とも様々な障害福祉サービス事業所、大阪府地域精神医療体制整備広域コーディネーターが参加し、各会議体の中から見えてきた成果や課題を協議の場で共有、検討している。	協議の場の時間に限りがあり、各会議の課題等について詳細に検討すること、また委員から助言いただく時間を十分に確保することが難しい。
その他関係機関・住民等	ピアサポーターがワーキング会議に参加し、市内のピアサポート活動の一例を報告、共有する機会をもつことができた。	ピア活動について活動報告の機会があり、今後の地域でのピア活動の必要性と可能性を実感できた。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
自立支援協議会 精神障害者部会 長会議	・保健、医療、福祉関係機関、 行政担当者等	1回/年	・関係機関等での情報共有や課題解決に向け協議 ・目標の設定や評価等	精神科医療機関に参画いただき、精神医療現場視点からの意見をいただいている。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（今年度）

時期(月)	実施内容	具体的な取組
R6.12	<p>精神障害者部会ワーキング会議 ※ワーキング会議は毎月実施 ※地域移行・地域定着サブワーキングは偶数月に開催</p> <p>精神障害者理解啓発事業「ハート・フェスタ」開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在院患者調査について ・アウトリーチ評価検討委員会 ・精神保健福祉を推進している社会福祉法人「やなぎの里」による紙芝居、人形劇 ・社会福祉法人みつわ会のメンバーによるゴスペル
R7.2	<p>自立支援協議会精神障害者部会長会議</p>	<p>詳細は未定。(各会議からの活動報告や事例報告などを予定)</p>